

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 東京都市大学
所 属 人間科学部 児童学科
名 前 大塚習平
作成日 2021年8月3日

1. 責務

近い将来、保育士や幼稚園教諭を志している学生に対し、造形関係科目である「保育内容の理解と方法（造形表現）」（1年必修）、「造形」（2年選択）、「幼児の造形表現指導法」（3年選択必修）を担当しています。

また、幼稚園教諭1種免許取得で必須となる実践的な科目（「幼稚園教育実習（1）」及び「幼稚園教育実習指導（1）」（2年選択必修）、「幼稚園教育実習（2）」及び「幼稚園教育実習指導（2）」（3年選択必修））を担当しています。

さらに、論理的思考力を養う「基礎ゼミナール」（1年必修）、「特別研究ゼミナール」（3年必修）、「卒業研究ゼミナール」（4年必修）を担当しています。

学務分掌では学生部委員会にてTC副学生部長ならびに厚生分科会主査を拝命し、学生支援に努めています。他に課外活動分科会、学生相談室委員会、事故防止対策委員会に所属しています。

2. 理念

「子どもにとって、表現することは呼吸することと同じくらい大切であること」を認識できる保育者を養成します。その為には、子ども一人ひとりの表現の違いを認め、それぞれの良さを発見し、認め、励まし、表現の後押しができるような学習が必要です。そして私自身も、一人の表現者として制作活動を継続し、発表する事で研鑽を積んで参りたいと思います。

また、学生部委員としても、学生一人一人の良さを発見し、認め、励ましながら、学生の表現活動や学生相互の活動が伸び伸びと円滑にできるよう、教職員と協力しながら支援していきたいと考えます。

3. 方法

造形担当科目では、学生自らが制作する事を通して、絵を描くことやものを作ったりすることの喜びを味わったり、見通しを立てて取り組んだり、失敗しても諦めずに何度も挑戦したり、失敗の原因を考えて工夫して取り組んだり、皆と協力して取り組んだりすることを学べるような課題を設定しています。教育実習指導では、幼稚園の社会的意義や役割、法的根拠などについて学びながら、幼稚園教諭の具体的な仕事内容や、幼稚園での子どもの育ちについて把握すると同時に、教育・保育現場で必要となる記録のとり方や指導案作成、模擬授業を通し実践力を身につけるような課題を設定しています。ゼミナールでは、文献調査と発表を軸に、問題を発見したり整理したりする力や、問題解決に必要なデータを収集する力、データを読み取る力、まとめる力、論理的に構成する力、考察する力、プレゼンテーション能力、話し合う力を育成しています。

また、TC学生副部長として、学生がキャンパスライフを通して主体的に活動することができるよう、学生から出た意見をサポートしながら、学生と大学との間に立って調整しています。また、厚生分科会主査として奨学金選考について検討したり、学生相談室委員として学生の悩みや心配事に対応したりしながら、学生相談室とのパイプ役となっています。さらに、学内業者との調整を行い、学生からの要望やリクエストを汲み上げ、伝えながらキャンパスライフがより魅力的で充実したものになるよう心がけています。

方針1 成長と表現には相関関係がある事を理解できる人材を育てる

- ・様々な実例を提示しながら、作業を通してまとめていくようにする

方針2 現場で活用できる研究やアイデアを作成する事ができる人材を育てる

- ・多面的なアイデアの提示と多彩な事例を紹介しながら一緒に考えていく

方針3 個々の発達や目線に立ったテーマを設定できる人材を育てる

- ・現場での年間指導計画等、具体的な資料を読み解きながら一緒に考えていく

方針4 一人ひとりの考え方や作品の良さを多面的に捉える事ができる人材を育てる

- ・プレゼンテーションや相互鑑賞会によってお互い認め合い、気付くことができるようにする

方針5 課題に対して協働して取り組む事の出来る人材を育てる

- ・グループでの活動や制作、話し合いの場を多く設定する

4. 成果

・振り返りアンケート調査の結果から、学生が授業を通して子どもの発達と子どもの表現の間に相関関係がある事を認識できるようになったことが明らかになりました。

・相互評価発表会を通して、学生がお互いの作品の良さに気付き、コメントし合えるようになりました。こうした成果は保育現場で子ども一人一人の作品について、認め励ますことに繋がっていきと考えられます。

・対面授業からオンライン授業へと授業形態が大きく変わりましたが、その都度アンケート調査を行い、授業形態の違いによるメリットとデメリットを分析しながら、授業改善を継続しています。オンライン型授業のメリットは、場所と時間を選ばずに学生一人一人が主体的に課題に向き合えるようになった事で、デメリットは、ちょっとした事で躓いた場合に、自力で先に進めなくなってしまう事や、相互に影響し合いながら成長し合う機会が減少してしまう事です。

5. 目標

・環境に応じた課題設定を精査していくことにより、学生の負担を軽減しながら学習効果を上げていきたい。

・学生相互の学び合いによる学習の相乗効果を最大限にできるような発表会や相互鑑賞のあり方について研究を重ねていきたい。

・オンラインのメリットを活かし、教育・保育現場との繋がりを密にしながら、理論と実践のバランスについて学生と共に学んでいきたい。